

政務活動報告書

令和7年8月1日

加須市議会議員 竹内 政雄 様

公明党加須市議団
代表 大内清心

公明党市議団は、下記の通り政務活動を終了したので報告いたします。

記

1 期 日 令和7年7月2日・3日

2 調査箇所 (1) 福島県富岡町 「東京電力廃炉資料館について」
(2) 福島県双葉町 「福島第一原子力発電所について」
(3) 福島県双葉町 「町内視察について」

3 調査者 大内清心 池田年美

4 調査事項及び所見

今回、公明党加須市議団は、初日に福島県富岡町の東京電力廃炉資料館を訪れ、原発事故の概要、廃炉の進捗状況や東京電力の視点からみた震災・原発事故について学んだ。この資料館は原子力事故の記憶と記録を残し、二度とこのような事故を起こさないための、反省と教訓を社内外に伝承するために設立された。長期にわたる膨大な廃炉事業の全容が見える化し、その進捗をわかりやすく発信するものであった。

二日目は、福島第一原子力発電所を訪れ、2011年3月11日の巨大地震、及びその地震から約50分後に襲来した高さ約13メートルの大津波により、冷却機能が全損し、1～3号機が炉心溶融したため爆発に至った建屋を視察した。事故の痕跡が生々しく残っており、爆発の凄まじさを物語っていた。その後の双葉町内の視察では、復興の進む双葉駅周辺を訪れ、駅西住宅の整備や商業施設の立地など、新たなまちづくりが進められていた。

加須市は平成28年11月3日、双葉町と友好都市を提携しており、今回の視察を通じてより一層の交流を深めるとともに、加須市内で暮らす被災者、また将来帰還を希望する被災者への支援にも継続して取り組んでいきたいと強く感じた。

(1) 双葉町の概要

双葉町は東に太平洋、西に阿武隈山系を望む、海と山に抱かれた豊かな自然を誇る町である。福島県浜通り地方のほぼ中央にあたり、双葉郡の北東部に位置している。JR常磐線と国道6号が平行しながら町の中心部を南北に縦断し、南は大熊町、北は浪江町に接している。比較的温暖な気候が特徴で、東北地方にありながら冬は積雪が少なく、住みやすい自然環境に恵まれている。

(2) 双葉町内復興拠点基本構想について

平成25年6月に策定した「双葉町復興まちづくり計画（第一次）」に基づき、町民一人一人が生活再建を果たし、町民のきずなを再考する「人（町民）の復興」と双葉町の土地を復旧・復興、町を再建・再興していく「町の復興」を目指して取り組んでいる。「町の復興」を目指して、町の将来像を明らかとした「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」を平成27年3月に制定。同ビジョンに基づき以下のように双葉町の復興まちづくりを進めていくこととしている。

- ①町内の線量が低い一定の地域に「新たな産業・雇用の場」や「新たな生活の場」の創出と「既存市街地の再生」を図り、町内復興拠点を整備する。
- ②避難指示解除の見通しが立てられない中、町内復興拠点の整備を一気に進めることは困難であるため、避難指示解除に先立ち産業・業務機能の集積を優先して進めることとし、避難指示解除準備区域内の中の地区を、町の産業再生の先駆けとなる「復興産業拠点」として先行的に整備することとする。

(3) 視察を終えて

福島第一原発周辺の立ち入り禁止区域（避難指示区域）は、2026年3月現在、7市町村の一部に「帰還困難区域」が残っている。拠点区域の除染・避難解除は進み、特定帰還居住区域の規制緩和も一部で始まっているが、依然として全町・全村避難の地域や、自由に立ち入れないエリアが広範囲に存在し、約2万3千人が避難生活を続けている。

しかしながら未曾有の大災害に直面した双葉町の人々は、たくましくも健気に復興のために前進していると感じた。出迎えてくれた職員や関係者の方々は私たちに暖かく歓迎してくださり、感謝の気持ちで一杯になった。1日でも早く双葉町の人達が原発事故以前の生活を取り戻し、自然豊かな街でこれまで以上に生き生きと暮らせるように願わずにいられないと思ったところである。



■双葉町・帰還困難区域



■双葉駅・駅西住宅開発エリア